

水産業改良普及事業経過報告

加藤孝作・猿谷倫・木梨清

I 概 要

昭和33年度に漁業研究グループを対象として伝承的な沿岸漁業に科学性をもたらし、各種漁具漁法の改良発達を行い相当な成果をあげているが、研究グループの組織が昨年漸くその緒についた程度のところもあり、今後更にこれら研究グループの育成指導を行うとともに漁業研究協議会を中心にした組織の強化と更に合理的な漁業技術の研究並びに漁家経営問題の研究を取りあげ色々と成果を修めることが出来た。以下33年度に実施した事業内容について記述すると次の通りである。

1. 先進地視察

(1) 視察の目的

沿岸漁業研究グループが、先進地の水産技術の導入とその交流をはかり各研究グループの育成強化と沿岸漁業振興の一助とするものである。

(2) 視察の内容

釣漁業について（主に1本釣曳縄釣）

網漁業について（主に刺網旋網）

視察地並びに実施月日 33年11月10日～11月14日、兵庫県、明石浦、林崎、柴山、香住、11月10日～11月13日 三重県、浜島、坂手島、11月10日～11月13日 愛知県、師崎、静岡県、地頭、相良、34年2月12日～2月16日 岩手県、気仙、綾里

（注 視察結果は昭和33年度先進地視察報告を参照）

2. 水産業技術改良普及研究発表大会

(1) 県大会

34年1月9日、水戸市三の丸水産農林会館会議室でおこなわれ発表者8名によつて漁業技術を中心にした各々のグループ内の研究成果が発表された。審査の結果最優秀賞は大洗町漁業研究会飛田広の「捲揚機の利用とその応用」が選出され、優秀賞には川尻漁業研究会鈴木桑寿の「漁場利用の現況と今後の見込」と久慈丸小漁業研究会稲川正行の「鯛1本釣の水温と漁獲の関係」がそれぞれ表彰された。更に今年度はその研究内容から特別に大津漁業研究会石川俊夫の「メジ曳釣漁法の研究と根ハズシ漁具の改良」が努力賞として賞され、又新しいところみとして研究グループ賞が研究協議会長より川尻漁業研究会を推選表彰された。

(2) 全国大会

県大会において最優秀賞を得た。大洗町漁業研究会飛田広の前述「捲揚機の利用とその応用」が参加、本県に於て初めての農林大臣賞を受賞された。

3. 漁業技術講習会の開催

小型魚群探知機の原理並びに取扱について

34年1月20日 大洗町漁業協同組合で2日間実施、参加者70名、講師、水産庁漁船研究室、西村技官、那珂湊市土岐電気株式会社、江里口俊夫

沿岸小型船の航法について

34年1月20日 大洗町漁業協同組合、参加者50名、講師、茨城県水産試験場

4. 技術研究並びに指導

(1) まき刺網漁業

この事業は平潟漁業研究会と水試が昨年度に計画したものであるが、昨年中は、漁具の選択と漁法試験のみで漁獲を対象にした操業は実施されなかつた今年度に入り春漁期のイナダ洄游群を対象にしておこなわれた。6月中旬～下旬にかけて先達船として組合所有平潟丸(10馬力45HP)を借用操業日数4日でイナダ約500貫を水揚げすることが出来た。

網地構造明細

A 網地, アミラン漁網

210デニール, $\frac{3}{16}$, 2.8寸目, 100K, 207掛, 4反

210デニール, $\frac{3}{4}$, 3.0寸目, 100K, 207掛, 1反

B 線付, 口付共, 1目乃至半目, 2号太いもの使用

C 結節, 蛙又, 縮結, 2.5割～3割

D 附属漁具

(A) 合成アバ, 鮭鱒流網用1反180ケ～200ケ

(B) 沈子, 鉛10匁, 1反600ケ～700ケ

(C) 浮子綱, マニラロープ5匁1反, 75K～80K(2本合)

(D) 沈子綱, マニラロープ9匁1反, 70K～75K(2本合)

(2) 刺網漁業

昭和31年度に取りあげたものであり、水試の試験項目の1項としても実施されてきていたが今年度に入り、大津漁業研究会が本格的な操業のはこびとなり、特に中層流漁法で一応の成果をもたらしている。この結果特に底刺網漁業は全県的に普及し特に大洗地区では相当な成績を修めている。

5. 現地協議会の開催

研究会の技術改良普及並びに漁家経営の合理化を推進するため必要な地域において現地協議会を開催することとなつていたが、時期的におくれ、年度末になつて水試の他の事業と関連性をもつて実施した。

実施時期 3月17日～3月25日

実施場所 平潟, 川尻, 久慈丸小, 大洗

問題点

実施経過並びに現地協議会等をおこなつた結果、各研究グループからの提出された問題点を要約すると次の通りである。

(1) 未利用漁場への進出が望まれるが現在この海区での漁場利用度が不明なため出漁までにいたつていない。したがつて今後は水試のこの海区での漁場調査を要望する。

(2) 販売加工体制が確立していないので魚価が安定しない。研究グループはもつとこの面での対策について研究する必要がある。

(3) 漁業技術の改良研究はよいがこのため漁場紛争の原因となるのはこまる。もつと漁場利用に計画性ある対策が望まれる。

(4) 経営研究が不十分である。

以上の様なことが各研究グループとも共通な問題として考えられていた。

II 巡回指導実施報告

佐藤 実

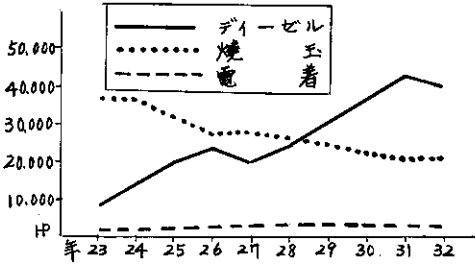
1. 概要

水産業改良普及の実施と共に引続き水産機械取扱巡回指導を行い其の成果も年と共に上廻っている前年度の講習実績から見て現地に於ける講習会は机上講習会は余り歓迎されず、取扱並びに整備に対する如き直接役立つ

つ方に漁民の関心が集まる傾向にあるため取扱及び整備の点に重きを置き、原理作動の如き基本的な講義の際は各種機関についての講義としディーゼルに片寄らない様注意を払った。

2. 現 況

本県下の動力漁船の中で20馬力未満の小型漁船は年々増加の傾向にあるが、これら漁船の主機関を年次ごとのグラフで見ると次の如くで、ディーゼル機関が急増しつつあることを示し、ディーゼル機関の講義を今後の指導指針に供した。



第1図 各種機関の年変化

3. 検診指導項目

- (1) 機械に対する一般
- (2) 機関取扱上の注意
- (3) 故障個所の発見法
- (4) バッテリーの取扱及び接続方法
- (5) 機関据付と軸心の出し方
- (6) 発電機及びマグネットに対する取扱方法
- (7) 捲揚機に対する一般
- (8) 散水其の他に対するポンプ

(9) 機械の分解及び長期格納に対する注意

4. 巡回指導実施内容

- 4月24日 平潟, 参加人員20名先達漁船検収後小型ディーゼル機関講義, 各部手入法, 船体と速力の関係及び屯数と馬力について
- 4月30日 平潟丸(先達船)海上運転施行立会
- 5月15日 吉田鉄工所, 17HP分解手入の打合せ
- 6月20日 大洋村, 機関の分解に対する注意と手入法実施指導
- 8月4日 日立, 会瀬漁場調査
- 8月8日 那珂湊, 田中造船所にて伊勢丸漁倉ポリエスチル塗装に対する講義水産庁係員の立会
- 8月10日 那珂湊, 同上磯浜善清丸, 立会
- 8月19日 大洋村, 鹿島丸検収試運転, 立会
- 10月1日 東京, ブロック会議出席
- 10月9日 日立, 参加人員27名主として電着機関に対する講義及び小型ディーゼル, マグネット2台, バルブセッティング6台, オートクリーナーに対する注意
- 10月27日 那珂湊, 那珂湊各船の検診各船共好調であつた。
- 10月30日 大洗, ディーゼル機関2台, ピストン並びに燃料係流, 電着4台, マグネット及び推進軸, クランクブラス, プロペラー等の講義。小型船用ラインローラーの各船の使用状況。
- 11月5日 波崎, 電着6IPクラッチ持参したので修理方法と修理指導
- 11月5日 那珂湊, 機械据付指導2件シリンダー, ライナー, 交換に対する注意とピストン押入時の注意と実施指導
- 11月15日 磯崎, 6IPピストンリング人替に対する注意と方法及びカバーの作用についてと調整法
- 12月11日 那珂湊, 共同にて船体捲揚機据付の立会
- 1月10日 巡回指導検診による一般機関の講義